

### [概要]

日本各地の地場産業は衰退の危機にあることから、依然として産地の存立について研究することは重要である。これまでの研究では、産地の存立基盤の一つとして技能者養成システムの存在が指摘されていた。すなわち、生産者として活動する後継者を生み出せるかどうかという点に関心があったといえる。しかしこれは、技術の継承・保存が可能になって初めて達成できるものであり、特に伝統産業で技術を文化として捉えて継承していくことは重要である。そこで本研究では、技術の継承・保存に注目することとし、菅笠産地越中福岡における菅笠製作技術伝承体系の変化を明らかにした。そして、いかにして技術の継承・保存を可能にしているのか、「空間」の存在から考察を試みた。その結果、技術伝承体系については、保存会による後継者育成講座がこれまでの家庭内技術継承体系の役割を担うようになったことがわかった。また、「空間」の存在から考察した結果、育成講座という空間の存在が、趣味として学びたい等のライトな動機を持つ人々を地域外から集めており、広範囲での技術の保存が可能になっていくことがわかった。このことから、福岡町は単なる菅笠の生産地としての性格だけでなく、暗黙知である菅笠技術提供の場としての性格を持っていることが指摘できる。

キーワード：後継者不足，暗黙知，記憶の継承